

<今回>342回目 2024年2月5日(月)14時~17時 601会議室
読書は10冊目「失われた九州王朝」 再読朝日文庫 p510、両者は対等位置 より

<前回>341回目(24-1-29)出席者9名

資料1) ~~(2-3-1)~~第341回(24-1-29)のまとめ(清水)

資料2) 百済人祢氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、清水)

資料3) 隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)

資料4) 朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)

A 報告 金曜webで関西の服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出てっていると質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。

B資料 2)その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。~~祢~~祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍將が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないかと推定される。封禪の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマカ。

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の人物順佛画像鏡の解説の原史量として配布された。左文、読み方などの参考になる。

皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中のところであるである。

4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸

山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故

「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べることになった。

C 読書 朝日文庫版:p506、9行目、なお井上光貞は から

(1) 隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に取っ
(1) ~~た採~~

た。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定—左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王=天皇、

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

書式変更: 行頭文字または番号を削除

斯麻を配下の人物に当てていた。③「遣」の用例を多数出している。遣(使者)＋敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して一を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遣の下に来る文例を上げた。

~~2024-2-5(月) 14時から17時 601会議室~~

~~2-19(月) 14時から17時 602会議室~~

~~3-11(月) 14時から17時 603会議室~~

書式変更: インデント : 左 : 6.3 mm